

## 最近の特許

### 整流子電機に於ける整流作用の改善に対する装置(特許第八〇八八五號)

此發明の特徴とする所は、整流子電機の整流子捲線に二次側の短絡した廻轉子(籠型廻轉子が良い)を有する非同期電動機を直接に並列接続する點にあり、之に依つて整流子電機の整流作用を改善する目的が達せらる。此の發明に對してヒントと成つた所は、交流電網に於ける高調波振動が、此の電網に並列に接続された籠型廻轉子を有する無負荷非同期電動機に依つて吸收除去されるといふ事實にある。整流子電機の整流作用はセグメント或はスロットの關係から生ずる高調波磁界従つて高調波振動に依つて甚しく悪化されるのであるから、此發明の如くするならば空隙中の高調波磁界も整流子捲線に於る漏洩高調波磁界も抑制されて整流作用が改善される。此の目的に使はれる非同期電動機の配置は任意で、例へば別個の籠型非同期機を交流整流子電動機の滑環に接続するも良く、或は非同期機の短絡廻轉子を整流子電機の廻轉子と同一軸上に構成し、互に並列に接続し、非同期機の二次側を廻轉可能の構造としても良い。(石川)

### 放電容器(特許第八〇八八七號)

從來大きな出力の高真空電子管には、電極や支持物にモリブデン・タンタラム或はタングステンの様な溶融點の高い金屬が用ひられて居る。之は製造の際の瓦斯驅逐工程と、實際の使用、高温度に曝されても、之に耐へなければならぬからである。然し之等金屬は高價で、細工が困難である。さればと云つて、溶融點の低い金屬、例へば銅・鐵或はニッケルを使用すれば、之等金屬は400乃至600度の排氣温度で、甚しく蒸發されるか或は粉末化される。此の發明では前記の内、高溶融點金屬を單に被覆とし、低溶融點金屬を各金屬構造部分特に電極の内部に使用するのである。之に依つて廉價に且加工が容易となる。(高橋)

### 高壓線路の接地電流抑壓装置(特許第八〇九〇八號)

此發明は保護されるべき高壓線路の接地電流を抑壓する爲、該線路に一變壓器を接続し其の一次捲線を三角形に接続して其の中性點を接地し二次回路は之れを調整し得る「オーム」抵抗、又は誘導抵抗を介して閉鎖し、一次、二次兩捲線を夫々同一磁肢に捲き且捲線の捲かれない自由磁肢を持つ鐵心を使用する如くした特許第四五三二九號の追加發明である。此發明に於ては二次線輪を磁束の自由歸路上に捲き、二次捲線を各相の一次磁束の總てと聯繫した故原特許に比して同一の作動確實性を以て二次捲線を節約し並鐵心の形態を輕減し得る等の特點を持つてゐる。(佐藤)

### 複式個別呼出電話装置(特許第八〇九八三號)

鐵道等に於て中央より指令する爲に各局を個別的に選擇呼出し、或は各局が相互に選擇呼出をする爲の所謂個別呼出電話装置に於ては、一般に同一系統に屬する一連の電話所の間への呼出のみしか出来ない。之を他の系統の電話所群とも通話したいといふ様な場合には、特別な中央交換所を設ける必要がある。しかし中央交換所を設備し得ない場合が屢々起るので、こういふ時に中央交換所の必要なく他系統の個別呼出装置の間とも任意に通話し得ることが本發明の特徴をなす點である。之を實施する爲には色々な方法があるが、例へば一つの電話器中に所要の數個の系統に屬する複數個の選擇用機構を組立てて、其の各々を各個の系統の回路に於て獨立に作用させる事に依つて目的を達することが出来る。(石川)

### 鑛山用電話器(特許第八〇九八四號)

此發明の特徴とする所は、鑛山用電話器の送話器を電話器の機構を収めたる耐爆發型の函より隔離して取付けた點にある。鑛山等り爆發生瓦斯のある場所で使用する電話器は、内部に收められた磁石發電機の火花其の他に依つて爆發を誘起する恐れがあるから耐爆發性の容器を必要とする。然し從來使用された電話器では成程容器は耐爆發性であるが送話器が其のまゝ器の前面に取付けてあるので、若しも容器の内部に爆發が起つと様な場合には送話器を突き破つて閃火が迸出して抗内の瓦斯に點火する事がある。此發明の様によれば前記の缺點が完全に除かれる。(石川)

### 直流分捲電動機組に對する接續方式(特許第八一〇一〇號)

此發明は一個り分捲調整器若くは多數り共動する調整器に依つて調整される廻轉數を持つ多數の並列運轉され且機械的に連結された直流分捲電動機組の接續に於て、其の電動機間の僅かの特性の相違のためにも全電動機の負荷は不均一となるの缺點が起る、此發明に於ては復捲捲線並差働復捲捲線を配置して全電動機の差働復捲捲線の兩端を夫々並列接續するか、若くは復捲捲線の兩端を夫々並列接續し且全電動機の差働復捲捲線を循環的に互に交叉接續することに依つて負荷の不均衡を容易且確實に補償して前記の如き從來の缺點を除くことが出来る。(佐藤)

### 電機用成層體(特許第八一二一五號)

電機用成層體を構成する葉鐵が、取附座に設けられた保持棒に固定されることは、從來行はれた方法であるが、斯様な方法では、葉鐵が熱せられれば、葉鐵に内力を發生する缺點がある。此の發明では、葉鐵が保持腕に於て、電機の半徑方向には餘裕を與へられ、切線方向には餘裕が與へられないで正確に適合される。此發明の構造によれば、成層體が加熱しても、個々の葉鐵に内力を發生しない。其は半徑方向に餘裕が存在する爲に、其の直徑が幾分増加しても、外方に膨脹出来るからである。(高橋)



\*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する  
商標または登録商標である場合があります。